

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

中田しらゆり地域は、古くから地域活動が活発な地域です。長後街道の沿線は平成11年の市営地下鉄開通と長後街道の拡張工事により都心への通勤圏となり、子育て世代など若い新住民が増加しています。それにあわせて子育て支援の需要が増加し、また新住民が町内会をはじめとした地域組織にいかにもスムーズに溶け込むことが出来るかが課題となっています。一方で葛野地区周辺やしらゆり地区など幹線道路から遠い地域は、高齢化が進んでいます。特にしらゆり地域は団地を除いて泉区で一番高齢化が進んでおり、また坂が多く閉じこもりやすい地形ということもあり、介護予防や支援が必要な高齢者の早期発見が課題です。

中田地区で地域福祉推進委員会が、しらゆり地区でしらゆり助っ人隊(SST)が組織されるなど、地域の高齢者に対する生活支援活動が活発になっています。2020年2月以降、新型コロナウイルスの影響で地域活動の自粛が続く、地域活動が停滞しているとともに、これまで行ってきた様々な活動が3密になってしまうため、コロナ禍の状況に適応した新しい地域活動の検討が必要となっています。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
■	<input type="checkbox"/>	リニューアルしたwebサイト「中田白百合地域情報サイト」を活用した積極的な情報発信を行う。 また、併設される中田地区社協のホームページの作成支援を行う。
■	<input type="checkbox"/>	新型コロナウイルスの感染対策として三密を避けた事業やインターネット等を活用した事業の検討実施する。
<input type="checkbox"/>	■	ケアプラザ全職員を対象とした研修を年3回実施する。その内1回については人権研修を行う。
■	<input type="checkbox"/>	シニアレポーター養成講座を開講し、同世代の目線で必要な情報を発信できるようにする。
<input type="checkbox"/>	■	薬局、商店、公共交通機関等、高齢者と関わりが深い機関にあらためて包括支援センターの周知を図るとともに、必要時連携が取れるよう、関係性の構築を図る

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

昨年度に引き続き、自主事業や貸館事業は、新型コロナウイルスの流行の影響を大きく受けました。地域活動自体が減少してしまっているため、リニューアルした中田白百合地域情報サイトも大々的に活用するには至っていません。その中でも中田地区社会福祉協議会のホームページは順調にスタートしています。

新型コロナの感染予防を意識し、屋外で行う事業と、ICTを活用した事業を推進しました。屋外事業としては、これまで行っていた親子野菜体験塾やそば打ち講座に加え、地域の農家から畑を借りて芋ほり会を行っています。ICTの活用としては、体操や講座のZOOM活用やスマートフォン講座を行いました。

コロナ禍によりケアプラザで活動していた団体、ボランティアともに減少してしまっています。地域活動の現状を把握するとともに改めて地域活動、ボランティア活動の担い手が増えるよう事業を企画したいと思っています。

区からのコメント

・コロナ禍により事業展開が難しい面もあったと思いますが、第4期の地区別計画をふまえ、屋外事業や手の届きにくい学齢期の子ども支援について新たな展開がみられるなど積極的に取り組んでいます。引き続き、強みである地域情報等の発信力に期待するとともに、身近な相談窓口として地域の課題解決に取り組んでください。

・ケアプラザエリア内にあるサービスB(横浜市介護予防・生活支援サービス事業)の2団体と良好な関係作りを行うことができています。次年度は区内で初めてになるサービスBの配食サービスも開始しますので、ぜひサービスを必要とする方に情報が届くよう包括支援センターと連携して事業を進めて頂くことを期待しています。

・認知症カフェ2か所の創設支援、小学校での認知症サポーター養成講座の計画、キャラバン・メイト連絡会の開催と支援、協力医と連携した認知症講演会の開催等、認知症関連事業の推進に尽力しました。また、介護者懇談会の開催やACP・成年後見制度の講座、在宅医療相談室と連携した研修や講座の企画など、各事業ごとに幅広い展開が行われています。オンライン研修やチラシやブログ等の工夫など、コロナ禍における柔軟な対応力で日々の業務を推進し、ノウハウを構築できました。来年度も、同行訪問等により、関係機関との顔の見える関係の継続をお願いします。